

コリント人への手紙第一 15-復活への希望

ここまで第一コリントから多くを学んできました。パウロは、このどうしようもない教会にあった不一致について特に言及していました。教会は人柄に基づいて分裂していました。

深刻な罪を悔い改めない人を容認し、その人を追放し悔い改めを求めることを怠っていました。

主の晩餐を軽んじ、偶像に捧げられた食べ物について分裂しました。

そしてついに、靈的賜物についての問題にも対処する必要がありました。16章では教会の問題とは関係のないことを述べていますので、15章でこの教会における最後の大きな問題についてパウロは言及しています。それは復活に関することで、私たちが将来復活する存在であるという真理が、今の人生、更には皆が直面する死への向き合い方にどのような違いをもたらすかを述べています。この章を数週間かけて見ていきますが、今日はイエス・キリストの復活ゆえの復活への希望について、この章全体から見てみたいと思います。

パウロはキリストの復活から語り始めます。

今年、福音中心の人生の学びを学びましたが、学びに参加された方々には、人生におけるすべてにおいて私たちの基盤となるものは福音であることが明確になったことを願います。第一コリント 15章で、キリストに在って待ち望む将来の復活に焦点が当てられています。その将来は福音ゆえに確かなものです。その思いからパウロは話を始めています。

まずはコリント第一 15:1-4 を読みましょう。

「1 兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入れ、その福音によって立っているのです。2 私がどのようなことばで福音を伝えたか、あなたがたがしっかり覚えているなら、この福音によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。3 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、4 また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと」

この箇所には福音の中心があります。私たちは罪人であり、私たちの代わりに罪の罰を受けキリストが死なれたことで、旧約聖書の犠牲と預言の全てが成就しました。私を含め、多くの方がそこで福音をとどめてしまうのではないのでしょうか。しかし、イエス・キリストの復活の真実は福音の核心部分です。実際、復活が無ければ救いも存在しません。それは、死から蘇られたからこそ、イエスは私たちの罪のためにもたらされた死の呪いに打ち勝つことができたのだからです。

最初の数節で福音を述べた後、使徒パウロはイエスの復活を証明しています。今日はお読みしませんが、来週の復活祭の日の説教の中心はこの箇所となります。救いが一度限りの出来事なのではなく、継続的な変化を伴うことに着目してください。

日本語では明確ではありませんが、2節には「**これによって救われます**」（現在進行形）で語られています。救いは一度の祈りや、人生のある時点での決断ではありません。

福音を信じ、罪を悔い改め、自分の主であり救い主としてイエス・キリストに信頼することは、その福音によって変えられる続けること、救われている最中であることを意味します。イエス・キリストを自分の主として受け入れることなしに、救い手として受け入れることが出来ないのはそのためです。使徒の働き 16:31 は「**主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも救われます。**」と言っています。キリストの復活は単に信じるべき真実なのではなく、永遠と言う観点で私たちの最善のために、その人生を完全に変える真理です。

キリストの復活は私たちにも永遠の命があること、そしてこの短い命の先に私たちの存在を保証してくれる復活があることを意味します。つまり、死者の復活の教義は福音の中心でもあるのです。

そして、私たちが復活の確かな希望を持つことができる第一の理由は、キリストが復活されたことにあります。12-14節を読みましょう。「12 ところで、キリストは死者の中からよみがえられたと宣べ伝えられているのに、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はないと言う人たちがいるのですか。13 もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。14 そして、キリストがよみがえらなかつたとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。」そして17節では更にその考えを発展させています。

「17 そして、もしキリストがよみがえらなかったとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今もなお自分の罪の中にいます。」明らかにコリントの教会には使者の復活はないと教える偽教師がいたようです。彼らは福音を受け入れた時、少なくとも福音を受け入れたと主張した時、このことを真実として理解していたはずです。死後の世界を否定していた訳ではなかったと思われます。おそらく、私たちが死んだあと存在しなくなると言っている訳ではなく、その存在は純粋に霊的なものであり、今、私たちが生き、楽しんでいる肉体的な性質はないのだと主張したのでしょう。

パウロは一連の質問を投げかけています。もし信徒の肉体的復活がなかったとしたらどうでしょう。それならイエスご自身も蘇られなかったでしょう。もしキリストが蘇られなかったらどうだったでしょう。私たちの信仰は空しく価値のないものです。

もし私たちの信仰が価値がないとすれば、罪の中にい続けるということです。だからこそキリストの復活は福音の中心であり、救いの中心であり、必要なのです。キリストの復活は、すべての信者に復活があることも意味します。これらの質問は単にキリストが死から蘇られたという真実を強調するものでしかありません。パウロは 20-26 節で次のように続けています。

「20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。21 死が一人の人を通して来たのですから、死者の復活も一人の人を通して来るのです。22 アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。23 しかし、それぞれに順序があります。まず初穂であるキリスト、次にその来臨のときにキリストに属している人たちです。24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。25 すべての敵をその足の下に置くまで、キリストは王として治めることになっているからです。26 最後の敵として滅ぼされるのは、死です。」

キリストの復活が私たちの復活を保証するのは、キリストが完全なアダムでおられるからです。

キリストはアダムの罪の呪いを覆されるのです。

アダムの罪はその後の私たち皆が罪を犯す原因となりました。

事実、アダムの罪によって私たち皆が、神に反抗する罪の性質を持って生まれてくるようになったのです。聖書は、この生まれ持って罪の性質を持つ状態を肉という言葉で表現しています。

ローマ 8:5-8 はこの肉にある状態、私たちの罪の性質を次のように言っています。

「5 肉に従う者は肉に属することを考えますが、御霊に従う者は御霊に属することを考えます。6 肉の思いは死ですが、御霊の思いはいのちと平安です。7 なぜなら、肉の思いは神に敵対するからです。それは神の律法に従いません。いや、従うことができないのです。8 肉のうちにある者は神を喜ばせることができません。」

肉、私たちの罪の性質は死によって特徴づけられます。

それは、私たちが神とその栄光に服従することを拒むことで神に敵対するからです。

これが罪の定義そのものです。そして、罪の中で霊的に死んだ存在なので、神を喜ばせることが出来ないのです。それが、アダムが私たちに与えたものです。

しかし、第二のアダムであるイエス・キリストは、23 節にあるように、キリストに属する全ての人のために罪と死の呪いを滅ぼされました。十字架の死によってそれを達成されたのです。

ローマ人への手紙 6:6 はこのように言っています。「6 私たちは知っています。私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだを滅ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。」

ですから、福音の素晴らしい真実とは、復活への希望です。ですが、その復活とはどのようなものなのか、という疑問が残ります。永遠で実体のない姿で漂うのでしょうか。

それとも実際に肉体的な性質を持っているのでしょうか。パウロはその問いに、私たちの復活は完全な霊的・肉体的存在となると答えています。復活の体験について 35-44 節を読みましょう。「35

しかし、「死者はどのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか」と言う人がいるでしょう。36 愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ生かされません。37 また、あなたが蒔くものは、後にできるからだではなく、麦であれ、そのほかの穀物であれ、ただの種粒です。

38 しかし神は、みこころのままに、それにかからだを与え、それぞれの種にそれ自身のからだをお与えになります。」そして 42 節に飛びます。

「42 死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらせ、43 卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらせ、弱いもので蒔かれ、力あるものによみがえらせ

れ、44 血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。」

パウロがここで言っていることを簡単にまとめると、肉体が死んだ後にある復活の存在とは、今の体とは違った種類の体ではあるものの、体があるということです。

パウロは種を私たちの現在と未来の存在に例えています。種に体はありますが、土に植えるまではあまり役に立ちません。死んで埋葬されるのと同じように土に植えられると、その種は「死んだ」種よりもはるかに美しく役に立つ植物となります。

私たちの体を意味する種は、腐敗してしまう滅びる状態で蒔かれたり埋められたりします。

ですが、それらは滅びないものとして蘇り、年月とともに朽ちていくことはありません。

卑しいものとして埋められたり蒔かれたりするとは、私たちの自然の状態が不名誉なものだということです。ですが、神の栄光という栄光あるものによみがえらされる

つまり、私たちの地上にある自然な状態は罪ある者であり、神に栄光を帰す者ではないということです。ですが、復活した命は神がご自身の創造物に現そうとされた神の栄光を完全に反映するものです。ですから、罪は未来の復活した体の一部ではあり得ません。

またパウロは私たちの体は弱いもので蒔かれたが、力あるものによみがえらされたと言っています。

私たちは皆、その存在において弱さとはどのようなものかを知っています。

病気になりますし、体は衰えていき、どんなに医者目の健康であったとしても、いつかは死にゆく存在です。しかし、私たちが将来蘇って存在するときには力があります。

弱さも病もなく、完全で永遠の健康を与えられます。

まだはっきりしないというのであれば、私たちの復活の存在は、イエスが復活された後の存在と非常によく似ていると思われれます。イエスは生まれた時から完全に人でした。

私たちと同じように年を取られました。マタイによる福音書4章では、イエスの人間としての存在の一例が示されています。マタイ4:2は「2 そして四十日四十夜、断食をし、その後で空腹を覚えられた。」と言っています。ルカ22:42では「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように。」と祈られたとき、イエスが十字架で受ける痛みをご存知だったようだということが分かります。

つまり、復活前のイエスは、ただ一つの点を除いて私たちと同じ人間でおられました。

罪を犯されなかったので、イエスの人生は決して卑しいものでも、神に栄光を帰さないものでもありませんでした。イエスについてヘブル人への手紙4:15はこのようにいっています。

「5 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。」

イエスは、私たちの罪とその罪に対する神の怒りをその身に負って下さり、それだけにとどまらず罪ゆえに私たち自身にもたらされる卑しさまでも負って下さり、十字架の死という非常に痛みを伴う死に向き合って下さいました。イエスの復活の体は、私たちに将来復活した存在を垣間見せてくれます。復活の後、イエスはイエスであることを認識できる体を持っておられました。

ルカ24:39は「5 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。」と言っています。イエスは食べ物さえ食べられました。

ルカ24:42-43には「2 そこで、焼いた魚を一切れ差し出すと、43 イエスはそれを取って、彼らの前で召し上がった。」とあります。けれど、この体は、私たちがこの世の生活において受ける人間の限界に制限されるわけではないことも、私たちは知っています。

ヨハネ20:19にこの例をみることが出来ます。「19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」復活されたイエスにとってドアや壁は何の妨げにもなりません。明らかにその体は同じに見えましたが、私たちの存在の限界はイエスに当てはまりませんでした。私たちの復活後の体も、おそらくこのようなものになるでしょう。今の私たちの体ですが、完全なのです。

ここまで、私たちの復活の体と存在の真理は、とても神学的なもので、ある意味冷淡で学問的な真理と言えるかも知れません。

ですが、15章の終わりに、パウロは私たちが復活と言う驚くべき真理に対してどのように応答すべきかを、それが起こる時を指し示すことによって示しています。

そこでは、神学的真理から、この真理が私たちの内にもたらすべき喜びの応答へと向かいます。この章の終わりを見るにあたり、50-58節を見てみましょう。

「50 兄弟たち、私はこのことを言うておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます。52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。」つまり、この復活の体は、血肉の体でなくなったとき、つまりこの人としての存在ではなくなった時にのみ与えられるということです。

これがイエスの復活のパターンでした。死後、その復活の体は完全にされるのです。

その体は全て同じ時に与えられるようです。つまり、死後私たちは霊的な存在となり、おそらく復活した体とは関係のない霊的な存在となる期間があるようです。復活の体はイエス・キリストが再び来られる際に与えられます。このことをキリストの再臨と呼びます。キリストの再臨の際、地上にはまだ一定数のクリスチャンを見つけることができるでしょう。彼らは全て「眠って」しまったわけでも死んでしまったわけでもありません。キリストの再臨の時、それまでに死んだ全てのクリスチャンの体が死から復活し、霊と一つになります。

またその時生きているクリスチャンは、復活の体を直ちに与えられ、肉体の死を経験することなく新しい体を与えられます。

54節では、この変化を「朽ちるべきものが朽ちないものを着る」と言っています。

これは喜ばしいことです。私たちが生きている、この罪の影響を受けた死すべき存在には終わりがあります。そしてその終わりは、この世の問題に影響を受けない完全な存在へとつながるのです。そこには、病気も、痛みも、悲しみもありません。

黙示録 21:4 は、この存在についてこう言っています。「4 神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」パウロが15章を55-58節で締めくくっているのは不思議な事ではないのでしょうか。「55 「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。」56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。57 しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。58 ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主であって無駄でないことを知っているのですから。」

この復活の希望は、私たちが生きている間にキリストが再臨されない限り、皆に必ず訪れる死を恐れずに、未来への不安を抱かずに生きることを可能にします。

私たちがこの世でキリストのために行っている働きは、決して無駄ではないという希望を与えてくれます。そして困難な時であっても、神が私たちを召された働きに励むことができるよう、私たちを力づけて下さいます。それはすべて、私たちが「キリストの内に」あるという事実によるものであり、私たちの勝利は主であるイエス・キリストとの関係ゆえにもたらされるものです。

イエスが死後の命への唯一の希望です。イエスなしに、復活も永遠の命もありません。

もしイエスを知っておられるなら、あなたの将来は守られていることを知った上で地獄の門にさえ立ち向かえることができます。けれどそうでない場合、あなたを愛してやまない神、あなたを罪から贖い、朽ちない復活の存在を与えるために、神のひとり子を十字架に送られた神から離れ、永遠に続く罰のみです。イエス・キリストを知っておられますか。あなたは、将来の朽ちない復活の体を思い人生を送られているのでしょうか。それとも単に現在の朽ち行く存在のために働いておられるのでしょうか。お祈りいたします。

1 Corinthians 15 – The Hope of our Resurrection

We have covered a lot of ground in 1 Corinthians. Paul has dealt with issues in this messy church that have dealt primarily with the disunity that was happening in the church. They were dividing over personalities. They were tolerating known unrepentant gross sin instead of removing the person and calling them to repentance. They were making a mockery of the Lord's Supper. They were divided about food offered to idols. And finally, the issue of spiritual gifts needed addressing. There are some final thoughts that are not related to the issues in the church in chapter 16, but chapter 15 is really the final big issue that Paul addresses with this church. It is dealing with resurrection, and how the truth of our future resurrected existence makes a difference in how we approach this life now and even the death we all face. We will spend several weeks in this chapter, but I want to start with an overview of the entire chapter today that reveals to us **the hope of our resurrection because of Jesus Christ's resurrection.**

And it is on Christ's resurrection where Paul's thoughts begin. I hope that as we went through the Gospel Centered life this year, that for those of you who joined that study it was very clear that **The Gospel is the basis for how we approach everything in this life.** And while the focus of First Corinthians 15 is on the future resurrection we look forward to in Christ, that future is secure only because of the gospel. So, that is where Paul begins his thoughts. Let's begin by reading verses 1-4 of 1 Corinthians 15. **15 Now I would remind you, brothers,^[a] of the gospel I preached to you, which you received, in which you stand, ² and by which you are being saved, if you hold fast to the word I preached to you—unless you believed in vain. ³ For I delivered to you as of first importance what I also received: that Christ died for our sins in accordance with the Scriptures, ⁴ that he was buried, that he was raised on the third day in accordance with the Scriptures,** This is the core of the gospel in these verses. We are sinners and Christ's death was in our place taking the punishment for our sins, which fulfilled all the Old Testament Scripture sacrifices and prophecies. I think too many times we, including me, stop the gospel at that point, but the doctrinal truth of the resurrection of Jesus Christ is at the heart of the gospel. In fact without the resurrection, there would be no salvation, since in rising from dead, Jesus conquered the curse of death that came because of our sin.

After these first verses introducing the gospel, the Apostle Paul goes on to give proofs that Jesus's resurrection occurred. We won't read these today, but they will be the focus of our sermon on Easter Sunday next week. Notice that our salvation is not only a one-time event, but involves ongoing life change. Verse 2 says, **“By which you are being saved...”** Salvation is not just a one-time prayer, or a decision made at a certain point in your life. Believing the Gospel, repenting of your sin and trusting Jesus Christ as your Lord and Savior means a lifetime of being changed by that gospel, in other words, **“being saved.”** It's why you can't just accept Jesus Christ as your Savior without accepting him as your Lord or Master as well. **Acts 16:31 says, “Believe in the Lord Jesus, and you will be saved...”** Christ's resurrection is not just a truth to believe, but it is a truth that changes our life completely for our eternal best. His resurrection means that there is an eternal life for us, that there is a resurrection for us that guarantees our existence beyond the short timeframe of our lives. This means that the doctrine of the resurrection of the dead is at the heart of the gospel.

And the primary reason that we can have a certain hope of resurrection is because of **Christ's resurrection.** Let's pick up reading verses 12-14. **12 Now if Christ is proclaimed as raised from the dead, how can some of you say that there is no resurrection of the dead? ¹³ But if there is no resurrection of the dead, then not even Christ has been raised. ¹⁴ And if Christ has not been raised, then our preaching is in vain and your faith is in**

vain. Then drop down to verse 17 where he expands that thought. **17 And if Christ has not been raised, your faith is futile and you are still in your sins.** There were apparently false teachers in the church in Corinth who were teaching that there is no resurrection from the dead. They should have understood this to be truth based on having accepted the gospel... or at least claiming to accept the gospel. They were likely not denying an afterlife. In other words, they were probably not saying that we ceased to exist after death, but that any existence would be purely spiritual in nature with none of the physical nature that we now live in and even enjoy.

Paul asks a series of questions. What if there is no physical resurrection for believers? Then even Jesus himself would not have been raised from the dead. And if Christ has not been raised what are the consequences? Our faith is in vain...it's worthless! That means that if our faith is worthless, we continue to be lost in our sin. This is why Christ's resurrection is central to the gospel, and therefore central and necessary to our salvation. And Christ's resurrection means that there is resurrection for all believers. And the truth is that all of these if statements and questions are simply rhetorical, because Christ has been raised from the dead. This is how Paul continues in verse 20-26. **20 But in fact Christ has been raised from the dead, the firstfruits of those who have fallen asleep. 21 For as by a man came death, by a man has come also the resurrection of the dead. For as in Adam all die, so also in Christ shall all be made alive. 23 But each in his own order: Christ the firstfruits, then at his coming those who belong to Christ. Then comes the end, when he delivers the kingdom to God the Father after destroying every rule and every authority and power. 25 For he must reign until he has put all his enemies under his feet. 26 The last enemy to be destroyed is death.** The reason that Christ's resurrection secures our resurrection is because he is the perfect Adam. He reverses the curse of Adam's sin. Adam's sin caused all of us to sin after that. In fact, it caused us all to be born with a sin nature that is actively rebelling against God. The Bible uses the term flesh to describe this condition of our natural state of sinfulness. **Romans 8:5-8** describes this condition of being in the flesh, our sin nature. **5 For those who live according to the flesh set their minds on the things of the flesh, but those who live according to the Spirit set their minds on the things of the Spirit. 6 For to set the mind on the flesh is death, but to set the mind on the Spirit is life and peace. 7 For the mind that is set on the flesh is hostile to God, for it does not submit to God's law; indeed, it cannot. Those who are in the flesh cannot please God.** The flesh, our sin nature, is characterized by death. And the reason for that is that we are hostile to God, by refusing to submit to him and his glory. That is the very definition of sin. And it keeps us from being able to please God at all, since we are spiritually dead in our sin. That is what Adam gave to us. But the second Adam, Jesus Christ, destroyed that curse of sin and death for all who belong to Christ as verse 23 says. He did that by his death on the cross. **Romans 6:6** says, **6 We know that our old self^a was crucified with him in order that the body of sin might be brought to nothing, so that we would no longer be enslaved to sin.**

So, the beautiful truth of the gospel is the hope of resurrection, but the argument still remains what is that resurrection like? Is it floating around in some eternal disembodied form? Or is there a truly physical nature to it? Paul answers that question by saying that **our resurrection will be to a perfect spiritual and physical existence.** Let's read about that resurrection experience in verses 35-44. **35 But someone will ask, "How are the dead raised? With what kind of body do they come?" 36 You foolish person! What you sow does not come to life unless it dies. 37 And what you sow is not the body that is to be, but a bare kernel, perhaps of wheat or of some other grain. 38 But God gives it a body as he has chosen, and to each kind of seed its own body. // Then drop down to verse 42 // 42 So is it with the resurrection of the dead. What is sown is perishable; what is raised is imperishable. 43 It is**

sown in dishonor; it is raised in glory. It is sown in weakness; it is raised in power. ⁴⁴ It is sown a natural body; it is raised a spiritual body. If there is a natural body, there is also a spiritual body.

To simplify what Paul is saying here, our resurrection existence that comes after our physical death will involve a body, although it is a different type of body to the one we currently have. He makes the comparison between a seed and our current and future existence. That seed has a body, but that seed doesn't have a lot to offer until you plant it in the ground. Once planted, just like burial after death, that seed produces a plant that is far more beautiful and useful than the "dead" seed it came from. The seed, which represents our bodies, is sown or buried **perishable** (subject to decay). But they are raised **imperishable** and no longer subject to the decay over the years of life. It is buried or **sown** in dishonor, meaning that our natural state is not honorable. But it is **raised in glory**, meaning the glory of God. So our natural state on earth is one of sin, and not giving glory to God. But in the resurrection life we fully reflect God's glory as he intends for his creation. So, clearly sin is not a part of this future resurrection body. Then he says, our body is sown in **weakness**, but raised in **power**. We all know what weakness is to our human existence. We get sick, our bodies wear out and eventually we all die no matter how healthy we are in a doctor's eyes. But our future resurrected existence is one of power. No weakness, no sickness, complete and eternal health!

If it hasn't been clear yet, our resurrection existence seems very much like the existence Jesus had after his resurrection. Jesus was fully human at his birth. He aged just like we do. Matthew 4 gives us an example of his normal human existence. [Matthew 4:2 says, And after fasting forty days and forty nights, he was hungry.](#) [Luke 22:42](#) seems to tell us that Jesus even knew the pain that he would suffer on the cross when he prayed, [42 ... "Father, if you are willing, remove this cup from me. Nevertheless, not my will, but yours, be done."](#) So, pre-resurrection, his humanity was the same as ours with only one difference. His life was never one of dishonor and failing to glorify God, since he never sinned. [Hebrews 4:15](#) says of Jesus. [15 For we do not have a high priest who is unable to sympathize with our weaknesses, but one who in every respect has been tempted as we are, yet without sin.](#) So Jesus faced a very horrible painful human death on the cross, where because he took our sin and God's wrath against that sin on himself, he even experienced the dishonor we bring on ourselves due to sin. But his resurrected body gives us a glimpse of our future resurrected existence. After his resurrection he had a body that was still recognizable as being him. [Luke 24:39 says, See my hands and my feet, that it is I myself. Touch me, and see. For a spirit does not have flesh and bones as you see that I have.](#) He even ate food! [Luke 24:42-43 says, 42 They gave him a piece of broiled fish, 43 and he took it and ate before them.](#) But we also know that this body was not limited to the human limitations we live with during our lives here on earth. In [John 20:19](#) we see an example of this. [On the evening of that day, the first day of the week, the doors being locked where the disciples were for fear of the Jews, Jesus came and stood among them and said to them, "Peace be with you."](#) Doors and walls were no issue to a resurrected Jesus, so clearly although his body looked the same, the limitations of our existence seemed to not apply. This is likely what our resurrected body will be. It will be our current body, just perfected.

So far, I would say this truth of our resurrection bodies and existence is a very theological and therefore it could be a rather cold and academic truth. But then we come to the end of chapter 15, where Paul shows us just how we should respond to the incredible truth that is our resurrection by pointing us to the time it will occur. And in these verses, we move from the academic theological facts to **the joyful response that this truth should create in us.**

Let's read verses 50-58 as we see the end of this chapter. ⁵⁰ I tell you this, brothers: flesh and blood cannot inherit the kingdom of God, nor does the perishable inherit the imperishable. ⁵¹ Behold! I tell you a mystery. We shall not all sleep, but we shall all be changed, ⁵² in a moment, in the twinkling of an eye, at the last trumpet. For the trumpet will sound, and the dead will be raised imperishable, and we shall be changed. So, these resurrected bodies are only given to us after we are no longer flesh and blood, in other words, living this completely human existence. This was the pattern of Jesus' resurrection. After death, his resurrection body was perfected. These bodies, though seem to come all at the same time, which means there is an intermediate period after death where we will have a spiritual existence that likely will not involve the resurrected Body. The resurrected body comes at the return of Jesus Christ. We call this his Second Coming. Christ's return will find some Christians still alive on earth at that time...they will not have all "slept" or died. At the time of his return, the dead bodies of all Christians who died before Christ's return will be resurrected from the dead and reunited with their spirits. Those Christians who are still alive at that time will receive their resurrected bodies immediately and be transformed into their new bodies without experiencing physical death.

Verse 54 describes this transformation by saying, **the mortal puts on immortality**. This is cause for joy! This mortal existence we live that has been so affected by sin has an end point. And that end point leads to a perfect existence that is unaffected by the problems of this present world. There is no sickness, no pain, no grief, no sadness. **Revelation 21:4** describes this existence... **4 He will wipe away every tear from their eyes, and death shall be no more, neither shall there be mourning, nor crying, nor pain anymore, for the former things have passed away.** Is it any wonder then, that Paul ends chapter 15 with verses 55-58, ⁵⁵ "O death, where is your victory? O death, where is your sting?" ⁵⁶ **The sting of death is sin, and the power of sin is the law.** ⁵⁷ **But thanks be to God, who gives us the victory through our Lord Jesus Christ.** ⁵⁸ **Therefore, my beloved brothers, be steadfast, immovable, always abounding in the work of the Lord, knowing that in the Lord your labor is not in vain.** This hope of the resurrection lets us live with no fear of the future, no fear of the death that will inevitably come to all of us unless Christ returns in our lifetime. It gives us hope that the work we do for Christ here on earth is not in vain. It strengthens us during the difficult times to be steadfast and committed to the work that God has called us to. And it is all due to the fact that we are "in Christ", our victory is through our relationship with our Lord Jesus Christ. He is the only hope for life after death. There is no resurrection and no eternal life apart from him. If you know him, you can face the gates of hell itself, knowing that your future is secure. But if you don't, the only thing that awaits you is eternal punishment separated from the God who loved you so much that he sent his only son to die on the cross to redeem you from your sins and provide you with the immortal resurrection existence that you were created for. Do you know Jesus Christ? Are you living your life in light of your future immortality and resurrection or simply for the purpose of serving your present mortal existence? Let's pray